企業・団体名（　株式会社ナガノトマト　）

（様式第３号）

SDGs達成に向けた具体的な取組（要件２）

	カテゴリ	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 （県などの取得認証があれば、併せて記載してください。）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1	人権・労働		【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している	基本	・雇用、教育、昇進・登用、福利厚生などあらゆる雇用条件で、差別しない体制を構築 し、コンプライアンス基本方針及びガイドラインに差別の禁止を明記し、定期的に社内研修を実施している					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
2			【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している	基本	・ハラスメントを禁止する旨を就業規則に明記し全ての従業員が自由に閲覧できる状態 を確保している ・年２回研修を実施、社内外に相談窓口を設置 ・「ハラスメントは絶対に許さない」書面の周知と承諾サインをもらい意識を高めている					5.1 5.2 5.5			8.5 8.8								16.1	
3			【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる	基本	・労働組合との36協定締結・労働基準法等の改正内容を就業規則に反映・長時間労働是正のための毎全社員の残業時間実績を経営者及び管理職と共有し、労働生産性の改善、時間管理を行っている								8.5 8.8									
4			【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している	基本	・対象者なし ・コンプライアンスガイドラインに７外国人労働者への差別・人権侵害防止を明記し、年１回社員研修を実施している				4.4				8.7 8.8		10.2 10.3							
5			【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	基本	・安全衛生計画に基づき、毎月安全衛生委員会を開催。各職場にてリスクを半期ごとに抽出し、改善・報告を行っている。また、安全衛生委員が毎月安全衛生パトロールを実施し、労働災害の潜在的危険性の低減を図っている			3					8									
6			【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	基本	・メンタルヘルスに関する方針と計画を策定している ・ストレスチェックを年１回実施。組織単位の課題を経営陣に報告し、対策を考え改善を行っている。・メンタルヘルスに関する職場の理解を促進するための研修を全社員と管理職に実施・社内外にヘルプライン制度を設置している			3														
7			【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	基本	・女性活躍推進法に基づき「女性社員の割合35%以上」を行動計画に掲げ活動している。 ・【予定】多様な人材の活躍できる職場環境を目指し、65歳以上再雇用者増を目指す					5.1 5.5			8.5		10.2 10.3							
8			【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	基本	・階層別や部署別の研修体系を整備し実施している （入社1年次研修、中堅社員研修 他）・応募型人材育成研修「プレ経営会議」を実施。もっとスキルアップをしたい人への機会を提供。				4	5.5			8	9								
9			【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している	基本	・労働契約法等の各法律の改正内容を理解し、同一労働同一賃 金等の原則に沿った体制の整備・対応を行っている。					5.5			8.5		10.2 10.3							
10			【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる	チャレンジ	・ニップン健保「健康づくりチャレンジ宣言」　健保連に「健康企業宣言」をい、「銀の認定」を認証している ・健康経営優良法人認定（中小企業部門）を取得している。			3					8									
11	環境		【廃棄物】 ・廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本	・廃棄物の種類・量など現状を把握し、台帳を整備して いる ・全国の優良産廃業者への委託 ・電子マニュフェストの導入、マニュフェストの管理											11.6	12.4		14.1			
12			【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本	・エコアクション21を取得し、使用量・温室効果ガスの排出量を把握し、削減計画も策 定している ・毎月開催されるEMS委員会にて報告・共有・対策をとっている。							7.3						13				
13			【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本	・毎月開催されるEMS委員会にて二酸化炭素排出量削減の目標を設定し、進捗管理の報告・共有・対策をとっている。							7.2 7.3					12.4	13.3				
14			【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本	・安全衛生委員会にて法令で規制されている有害化学物質を把握し、リスクアセスメントにて抽出を行い、削減のための計画を策定している。			3.9			6.3					11.6	12.4					
15			【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本	・環境に配慮した原材料、製品、サービスの提供を通じて生物多様性保全に配慮している						6.6									15		
16			【３Ｒの推進】 ・リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本	・製造工程で発生する副産物や廃棄物は、さまざまな用途で再資源化され、有効活用している。有機物は園芸・農業用の有機肥料に。資材廃棄物の一部は、住宅建材に再商品化。リサイクル率は概ね95％以上。 ・封筒や紙袋、スーパーバックは全て環境に配慮した材料を使用している												12.5		14.1			
17			【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	チャレンジ	・排水処理設備を新しい処理方法に変更し、消費電力量を75％削減。 自社の水源を含む揚水量と使用量を毎日記録し、原単位を用いて使用量削減目標の進捗管理を毎月行なっている。						6.4 6.6											

	カテゴリ	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 （県などの取得認証があれば、 併せて記載してください。）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
18			【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している	チャレンジ	・エコアクション21を取得			3.9			6	7					12	13.3	14	15		
19			【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	チャレンジ	・ＨＰで「環境への取り組み」と題して、基本理念・基本方針・環境活動等の情報を公開し、「環境経営レポート」を掲載している												12.6					
20			【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	チャレンジ	【予定】・工場への太陽光パネルの設置と利用を検討している							7.2						13				
21			【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	チャレンジ	・認証製品（森林等）を利用している ・調達時に調査を行い、非合法材を使用していないことの確認を行っている												12.2	13	14	15		
22	公正な事業慣行		【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している	基本	・コンプライアンス基本方針及びガイドラインに汚職・贈収賄の禁止を明記し、定期的に社内研修を実施している																16 16.5	
23			【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	基本	・コンプライアンス基本方針及びガイドラインに不正競争行為に関与しないことを明記し、定期的に社内研修を実施している																16	
24			【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる	基本	・特許、商標等知的財産権の取得・管理している ・コンプライアンス基本方針及びガイドラインに知的財産権の保護を明記し、定期的に社内研修を実施している								8.2 8.3	9								
25			【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している	基本	・個人情報取扱規程、個人番号及び特定個人情報取扱規程を定め、法 令に基づき厳正に管理運営。 ・ソーシャルメディアポリシー、情報セキュリテイマニュアル、個人情報ガイドラインを定め、定期的に 研修を実施している。																16	
26			【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレンジ	・調達時に原材料サプライチェーンを把握している																16	
27			【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレンジ	・調達規定に基づき、年１回取引先に赴き、管理項目に関してのヒアリングを実施。サプライヤーガイドラインの説明と同時にリクスを含めた先方の取組状況の確認活動を行っている					5			8		10		12	13	14	15	16	17
28	製品・サービス		【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本	・FSSC22000を取得。品質・食品安全マネジメントシステム規定及び計画に基づき、クライシス対応マニュアやルインシデント案件共有の仕組み化にて他部署との情報共有、リスクの洗い出しと対策を実施 している 。 ・全社員に対して食品安全文化の醸成を研修で行っている。			3.9									12.4					
29			【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	基本	・ISO9001を取得。「品質・食品安全方針」を掲げ、品質・食品安全マネジメントシステム規定及び計画に基づき、各種マニュアルの整備、教育・研修等を実施、安全で安 心な製品を提供できる仕組みづくりを構築している。 ・毎年、全部署「品質・食品安全目標」を設定し、活動している、。 ・毎月、安全点検日を設けてメンテナンスや研修を実施している。									9								
30			【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	チャレンジ	・環境負荷低減に役立つ加工技術・新容器･原材料等の探索を環境目標に設定し、積極的に取り組んでいる。						6						12	13	14	15		
31			【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	チャレンジ	・「機能性表示食品」を開発し、消費者庁に製品を登録。個食化による廃棄ロス削減や利便性など商品を通じておいしさと健康をお届けする製品・サービス の開発に取り組んでいる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

		非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 （県などの取得認証があれば、併せて記載してください。）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
32	社会貢献・地域貢献		【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本	・トラックによる交通トラブルや工場稼働に伴う騒音や臭気等により地域の住民に影響を与 えないような対策を実施している。安全衛生委員会にて外部への騒音測定を行い、現状を把握して改善を行っている。				4					9		11	12		14	15		17
33			【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ	・児童施設へ自社商品を寄贈。古紙リサイクルの収益の一部を寄付。フードバンク、子ども食堂にも積極的に協力、支援を行っている。				4							11			14	15		17
34			【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	チャレンジ	・自社ブランドトマト「愛果（まなか）」の栽培から収穫。収穫後はトマトジュースやトマトケチャップなどに加工して全国へ販売している。 ・長野県産えのきたけ100%を使用したなめ茸はロングセラー商品。								8	9		11	12	13				
35	組織体制		【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している	基本	・2006年全社員で経営理念を策定。ＨＰ、食堂、各場所に掲示する他に社員は「理念カード」を所持。経営目標及び各部門目標は年度初めに全社員の前で発表し、共有する。社員が不明な点は経営者に直接質問できる場がある（ﾜｲｶﾞﾔ）。								8	9								17
36			【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本	・コンプライアンス基本方針及びガイドラインや就業規則、各種規定は社内ネットワークやラックに設置され、いつでも閲覧できる状態になっている。法令順守（コンプライアンス）の重要性は全社員に対してコンプライアンス研修を実施していいる																16	
37			【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本	・CSR担当役員を任命し、コンプライアンス委員会を設置。 年1回の内部統制監査により会社が適正な運用をしているか確認。																16	
38			【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	基本	・適宜ステークホルダーと対話し、自社活動のステークホルダーへの影響を把握し、具体的 な内容に努めている																16	17
39			【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ	・リスクマネジメント委員会によるリスクマネジメントシステムを運用。 ・毎年各部署にてリスク台帳を見直し、RPMシートを作成し、全社リスクの見直しを行ったうえで、適切な対策を講じている																16	
40			【社会的責任】 ・ＣＳＲ（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ	・コンプライアンス基本方針及びガイドラインを制定し、対応している																16	
41			【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ	・ＢＣＰ事業継続計画書を見直すことで充実させ、研修で周知を行っている。 ・年１回全社にてＢＣＰ計画にそった訓練を実施している。									9		11		13 13.1			16	
42			【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ	・創造的成長を描ける人材・チームの育成として中堅・若手社員対象に応募型の自己啓発機会の提供を行っている。								8	9								17

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

【記載留意事項】

・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取り組む予定のものにあっても「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前に【予定】と記載してください。）

・「非該当」欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合にチェックし、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。

・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載してください。

また、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、その旨を併せて記載してください。

（※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、信州福祉事業所認証・評価制度、えるぼし認定、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）